

二〇二四年―七月　なにはづ短歌会（第百五十一回）

会記　森田幸子

なにはづ短歌会は、七月十三日（土）午後　大阪本苑にて開催
指導　森田幸子先生
詠草二十八首、参加者十四名

源氏蛩かすかな光を放ちつつ暗闇の中に舞ひ上がりたり・・・・・・・・大城信香

伽羅香る御堂におはす釈迦如来ご奉仕前に友と額づく・・・・・・・・島村直子

続く雨に苑の白藤生ひ茂り蔓は椿に絡みつきたり・・・・・・・・神門明子

火打ち金に加工をせむと薄板のハガネ取り出す朝の工場に・・・・・・・・宇佐美賢治

両陛下は英国の地を訪れて歓迎の民に笑顔でこたへり・・・・・・・・宇佐美日出子

半世紀経て白地の褌せぬわが祖母の見立てし浴衣けふ解きゆく・・・・・・・・出口照代
ほど

ふるさとの能登の小川に沢蟹をメダカを取りし梅雨を思ひぬ・・・・・・・・高枝悦美

「さかい利晶の杜」の樹々には与謝野晶子と名付けられたる桜の木のあり

奈良典子

直心会をともに励みし友逝きしか帰幽宣伝使欄にその名を読みぬ・・・・・・・・小西靖子

朝のコーヒー飲みて見てゐる南郷池に鴨は鳴きつつ吾がまへ過る・・・・・・・・森田幸子
過ぎ

雄鶏の声遠く聞きつつ石上神宮の古き拝殿にお祓ひを受く・・・・・・・・増井さえ子

松山のご奉仕おもひ四日間の分割修行を楽しみて受く・・・・・・・・久井照子

わが兄の五年祭けふ参拝者の思はぬ人らが兄を称へぬ・・・・・・・・松本和子

夕暮の山峡の道に赤蜻蛉吾が目の高さに群れて飛び交ふ・・・・・・・・加賀見明男